

〈資料〉

メンタルヘルスリテラシー授業を実施する上で小学校、中学校、高等学校の教員が抱く困難感や課題、必要と考える支援：文献レビュー

Difficulties, Challenges, and Necessary Support Perceived by Elementary, Junior High, and High School Teachers in Implementing Mental Health Literacy Classes: A Literature Review

栗林一人¹ 大熊恵子¹ 片山健浩¹

1 東京医療保健大学 千葉看護学部 看護学科

Kazuto KURIBAYASHI¹, Keiko OKUMA¹, Takehiro KATAYAMA¹

1 Division of Nursing, Chiba Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University

要 旨：目的：本研究は、日本の小学校、中学校、高等学校において教員がメンタルヘルスリテラシー（MHL）授業を実施する上で抱える困難感や課題、必要と考える支援について、既存の文献をレビューすることを目的とした。
方法：2025年6月に、医学中央雑誌 Web 版および J-STAGE を用いて文献検索を行った。文献の選定プロセスは、除外基準を設定し、抽出した文献を精査していった。
結果：除外基準をもとに文献を精査し、最終的に2件の文献をレビューした。教員が MHL 授業を実施する上で抱える困難感や課題として、授業内容・方法に関する不安、精神疾患を有する児童・生徒への配慮、授業の影響に対する不安、授業準備の時間的制約が示された。また多くの教員が、医療職者やメンタルヘルスの専門家から授業内容や授業方法に関する支援を求めていることも示された。
結論：教員自身の MHL 向上や効果的な授業展開に関する体系的な研修の充実、医療職者やメンタルヘルスの専門家からの支援の拡充、個別支援が求められる生徒への配慮や授業後のフォロー体制の整備が望まれる。

Abstract : **Aims :** This study aimed to review existing literature on the difficulties and challenges faced by teachers when conducting mental health literacy (MHL) lessons in Japanese elementary, junior high, and high schools, as well as the support that is needed.

Methods : In June 2025, a literature search was conducted using Ichushi Web and J-STAGE. The selection process involved setting exclusion criteria and carefully screening the extracted literature.

Results : Based on the exclusion criteria, the literature was screened and ultimately two papers were included. The challenges and difficulties faced by teachers in implementing MHL lessons included anxiety about lesson content and methods, consideration for students with mental health conditions, concerns about the impact of the lessons, and time constraints in lesson preparation. It was also shown that many teachers seek support from healthcare professionals and mental health experts regarding lesson content and methods.

Conclusion : It is desirable to enhance systematic training aimed at improving teachers' MHL and effective lesson development, to expand support from healthcare professionals and mental health specialists, and to establish systems for follow-up and individualized support for students who require special attention.

キーワード：教員、メンタルヘルスリテラシー、授業、困難感、課題、支援

Keywords：teachers, mental health literacy, lessons, difficulties, challenges, support

I . はじめに

精神疾患を含むメンタルヘルスの問題は、世界中で重要な健康課題として位置づけられている。世界精神保健調査によると、精神疾患の生涯有病率は世界的に18.1～36.1%と推定され¹⁾、日本は22.3%と報告されている²⁾。精神疾患は世界的に約3～5人に1人が生涯において罹患すると推定されている。一方、全精神疾患の約4分の3は14歳～20代半ば迄に発症することが報告されており^{1, 3)}、思春期から青年期は精神疾患発症の好発時期である。また精神疾患の診断基準は満たさないがメンタルヘルス不調を抱える思春期から青年期の若者は多く^{4, 5)}、精神疾患発症の好発時期と合わせ、思春期から青年期はメンタルヘルスへの支援が特に重要な発達段階である。精神疾患やメンタルヘルス不調はその個人に精神的、身体的、社会的な影響を及ぼす⁶⁾が、早期に適切な治療や必要な援助を受けることがそれらの影響の改善に繋がる^{7, 8)}。しかし、若者の多くは自身のメンタルヘルスに関して、家族や友人、教員や医療職者など、専門家を含む周囲に対して支援や助けを求める援助希求行動を取ることに抵抗を感じる傾向がある⁹⁾。メンタルヘルスに関連した若者の援助希求行動の阻害要因に関する複数のシステムティックレビューにおいて、精神疾患を含むメンタルヘルスに関する正確な知識や理解の不足、精神疾患に対するスティグマが、専門的な治療・援助を求めることを妨げる主要因であることが報告されている^{10, 11)}。そのため思春期から青年期の若者に対し、精神疾患を含むメンタルヘルスに関する正確な知識・理解を向上させ、精神疾患に対するスティグマの軽減を図り、精神疾患やメンタルヘルス不調に対して早期の治療・援助へと繋げることが重要である。

そのための概念の1つとして、メンタルヘルスリテラシー (Mental Health Literacy : MHL)がある^{12, 13)}。MHLとは、精神疾患を含むメンタルヘルスに関する正確な知識と理解を深め、精神疾患に対するスティグマの軽減、援助希求行動を促す概念である^{14, 15)}。MHL向上を目的とした取り組みは各国で導入が進められており、思春期から青年期におけるメンタルヘルスへのポピュレーションアプローチの観点から、主に小学校、中学校、高等学校 (以下、高校とする) など

の教育現場で全児童・生徒に対してMHLに関する授業が行われている¹⁶⁾。思春期から青年期の若者が一日の大半を過ごす教育現場は、MHLを向上させる上で最適な場であると考えられている¹⁷⁾。教育現場での若者を対象としたMHL教育の効果研究に関するシステムティックレビューでは、精神疾患を含むメンタルヘルスに関する知識の向上、精神疾患に対するスティグマの低減効果が期待できることが報告されている¹⁸⁾。教育現場でMHL教育を実施することは、思春期から青年期の若者のメンタルヘルスへの支援として有効である可能性がある。

日本においては2017-2018年度の学習指導要領改訂により、小学校は2020年度、中学校は2021年度、高校は2022年度から、MHLに関する授業が開始されている^{19, 20)}。小学校では保健領域で「心の健康」、中学校では保健分野で「心身の機能の発達と心の健康」、高校では科目としての保健で「精神疾患の予防と回復」などの授業が実施されている。「精神疾患の予防と回復」では、精神的健康を保つためのセルフケアの方法や精神疾患の症状に関する知識、精神疾患やメンタルヘルス不調の早期発見・早期治療や援助希求行動の重要性、援助希求行動を妨げるスティグマに対する課題も含まれている²⁰⁾。しかし、こうした授業内容の整備の一方、実際にMHL授業を担う教員に対しての体系的な研修の機会や支援体制が十分に整っているとは言い難い。多くの教員は自身が精神疾患に関する授業を受けたことがなく¹⁶⁾、どのような授業を実施すればよいかイメージしにくい。また「こころの健康教室サニタ²¹⁾」など全国の学校で利用可能なMHL授業教材も整備されてきているが、精神疾患を含むメンタルヘルスに関する教員自身の知識不足やスティグマなどの課題も指摘されている²²⁾。さらにMHLの授業後に生徒が自身の精神疾患やメンタルヘルス不調を教員に相談することも増えると考えられ、養護教諭やスクールカウンセラーに限らず、MHL授業を実施する全ての教員が相談内容に関する支援技術を向上させることが求められる¹⁶⁾。そのため、MHL授業を担う教員に対して、授業の実施方法や、教員自身のMHLの向上、生徒からの相談に対する支援技術などの習得をはじめとした体系的な研修の機会や支援体制が必要である。体系的な研修や支援を行うために、まずMHL授業を

実施する上で教員が抱く困難感や課題についての包括的な理解が欠かせない。しかしながらこれまでに、教員がMHL授業を実施する上で抱く困難感や課題、必要と考える支援に関する文献レビューは行われていない。

そこで本研究では、日本の小学校、中学校、高校の教員がMHL授業を実施する上で抱く困難感や課題、必要と考える支援に関する先行研究をレビューし、困難感や課題、必要と考える支援の内容を概観することを目的とした。

Ⅱ．方法

1. 文献検索方法

論文検索は2025年6月に実施し、データベースは医学中央雑誌Web版、J-STAGEを使用した。MHLは教育学、心理学、医学など複数の学術分野に跨る研究領域であり、日本語で公開されている教育・医学系の学術論文を幅広く収載しているこれら2つのデータベースを用いた。

医学中央雑誌Web版の検索式は、((メンタルヘルスリテラシー/AL) AND ((教員/TH or 教員/AL)) AND ((教育手法/TH or 授業/AL) or 講義/AL))とし、J-STAGEの検索は「メンタルヘルスリテラシー、教員、教育、授業、講義」のワードを組み合わせて行った。どちらでも絞り込み条件を、原著論文とした。

2. 選択基準

論文の組み入れ基準は、①日本の教員が対象であること、②MHLの授業を実施する上での困難感や課題、または必要とする支援を報告していること、③論文の言語が日本語または英語である、こととした。除外基準は、研究対象者が日本以外の教員である、学生が研究対象者である、MHLプログラムの開発やその効果検証が主目的の介入研究である、教員がMHLの授業を実施する上での課題、困難感、または必要とする支援を報告していない研究とした。組み入れ基準を満たした論文については参考文献リストをチェックし、ハンドサーチとして追加で適格な論文がないか調べた。

3. 分析方法

抽出した文献は、①日本の小学校、中学校、高校の教員がMHL授業を実施する上で抱く困難感や課題、②求めている支援、についてまとめた。

Ⅲ．レビュー結果

1. 研究の対象

図1に文献抽出のフローチャートを示す。検索の結果、48件が抽出された。タイトルとアブストラクトから除外基準に沿って45件を除き、次に論文の内容を精査し2件を除外した。またハンドサーチにより1件の文献を追加した。最終的に2件の文献を分析対象とした。

2. レビュー文献の概要

レビューした文献はどちらも自記式質問調査票を用いた研究であり、回答者数は、411名、354名であった。教員がMHL授業を実施する上で抱く困難感や課題は、授業内容・方法に関する不安、障害を持った児童・生徒への配慮、授業による影響への不安、時間的な課題、があった。必要と考える支援は、医療職者やメンタルヘルスの専門家からのサポートが示された。それぞれの論文について、概要を紹介する。

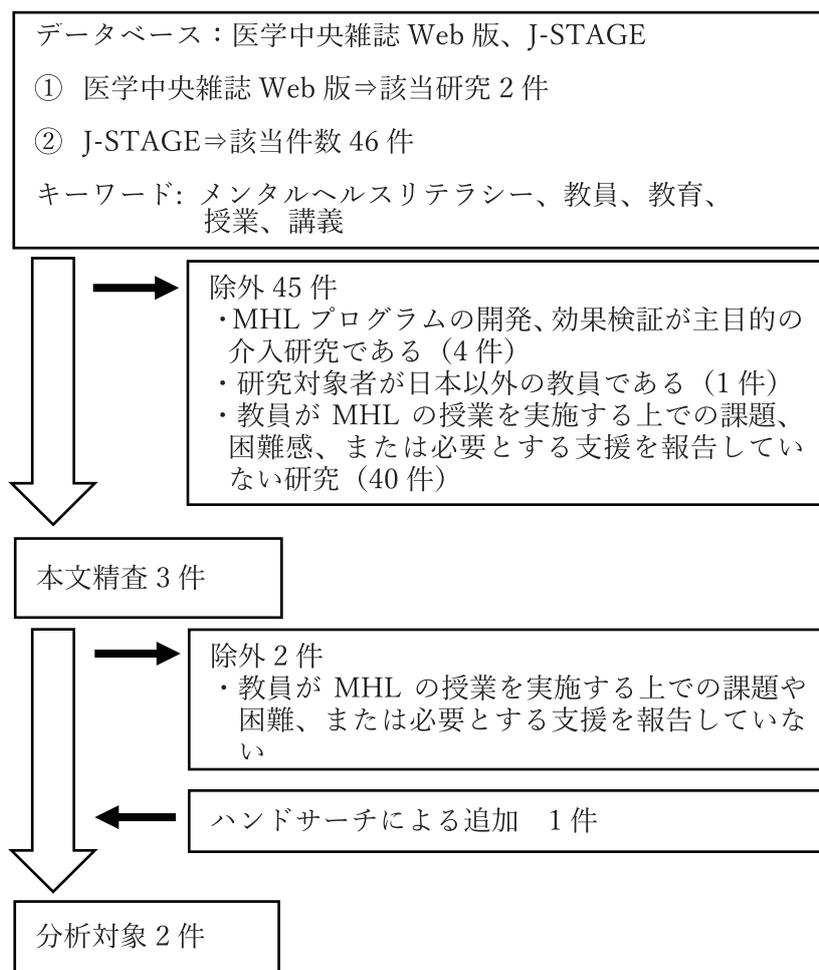
①小・中学校教員（保健の教科担当）のメンタルヘルスリテラシー教育に関する考えと必要とする支援

山田ら(2022)の研究²³⁾では、教員がMHL教育を実施する上での不安や困難感、必要と考える支援を明らかにするために、質問調査票を用いた調査（自由記載欄への回答含む）を行った。保健教育に携わる教員数が多い全国の公立・私立の小・中学校各250校（計500校）を無作為に抽出し、各学校2～4名の「保健」担当教員に研究協力を依頼し411名（回収率20.6%）から回答を得た。

主な結果として、教員がMHLの授業を実施する上での不安や困難感については「メンタルヘルスや精神疾患に関する知識や自身の十分な理解ができていないかわからない」「その立場の生徒がいたら、辛い思いをさせてしまわないか。差別発言が出てしまわないか」といった【指導内容・方法に関する不安】、「診断をすでに受けている生徒と、そうでない生徒がいる中で、どの程度まで伝えるべきなのかは迷う」といった【障害を持った児童・生徒への配慮】、「生徒達に誤解のないように伝えられるか。伝えることでいじめ等につながる可能性はないか」といった【指導による影響への不安】、「教材研究や準備のための時間がないし、どこでその時間をとれるだろう」といった【時間がない】の4カテゴリーが抽出されていた。

またMHLの授業を実施する上で医療職者を含めた専門的サポートが必要かについては、「思う」225

図1 文献抽出のフローチャート



名(55.7%)、「少し思う」141名(34.9%)、「あまり思わない」17名(4.2%)、「思わない」6名(1.5%)であり、専門的サポートを受けたいと考える教員が多いことが示された。教員が医療職者や専門家から受けたいサポートについての自由記載からは、【専門家が直接講義することや講義のサポート】【具体的な指導内容を提示してほしい】【児童・生徒にとってわかりやすい教材の充実】の3カテゴリーが抽出されていた。

②日本の高校教員におけるメンタルヘルスリテラシーに関する調査

Yamaguchi et al. (2021)の研究²⁴⁾では、日本の高校教員を対象に、生徒にMHLについて教えることへの自信、教員自身のMHLの程度について、自記式質問調査票を用いて調査が行われた。調査はある県の公立高校27校に勤務する教員665名を対象に実施され、354名(回収率53.2%)から回答を得た。

主な結果として、生徒にMHLについて教える自信があると回答した教員は全体の11.1%であった。

また教員自身のMHLについて、各精神疾患の症状を正確に回答できた教員は、うつ病：54.1%、統合失調症：35.3%、パニック障害：78.0%であった。さらに思春期から青年期は精神疾患の発症の好発時期であることを正確に回答できた教員は、51.7%であった。

IV . 考察

本レビューの結果から、教員がMHL授業を実施する上で、指導内容・方法に関する不安、精神疾患を有する児童・生徒への配慮、授業による影響への不安、時間がない、という困難感や課題、また多くの教員が医療職者やメンタルヘルスの専門家による授業内容や方法の支援を求めていることが示された。

指導内容・方法に関する不安は、その背景の1つとして精神疾患を含むメンタルヘルスに関する教員自身の知識が乏しいことにある²²⁾。今回レビューしたYamaguchi et al. (2021)の研究²⁴⁾では、教員の精神疾患に関する知識は疾患ごとにばらつきがあり、特に統

合失調症やうつ病に関する正答率が低いことが報告されていた。教員のMHL向上を目的とした介入研究のシステマティックレビュー、メタ分析によると、教員を対象としたMHL介入は教員の精神疾患を含むメンタルヘルスに関する知識の向上に有効であることが示されている^{22, 25)}。こうした研究結果をもとに、教員自身のMHLを向上させる体系的な研修や教育プログラムの普及が望まれる。また教員は「生徒達に誤解のないように伝えられるか、伝えることでいじめ等につながる可能性はないか」といったMHL授業による影響への不安を抱いていた。このような不安に対し、医療職者やメンタルヘルスの専門家が授業内容や授業方法に関する支援を行い、連携して授業を行っていくことも重要であろう。教員がMHL授業を安心して実施するために、精神疾患を含むメンタルヘルスに関する教員の正確な知識の習得や授業展開に関する研修、医療職者やメンタルヘルスの専門家からの支援の充実が求められる。

さらに教員は「診断をすでに受けている生徒と、そうでない生徒がいる中で、どの程度まで伝えるべきなのかは迷う」といった精神疾患を有する児童・生徒への配慮に関して、課題を感じていた。MHL授業は、思春期から青年期における精神的健康へのポピュレーションアプローチの観点から基本的に全児童・生徒を対象に行われている。ポピュレーションアプローチは対象者をスクリーニングすることなく全員を対象にすることで、全ての人に支援方略を届けることができる^{26, 27)}が、授業では個別支援が求められる生徒への配慮や対応、授業後のフォロー体制の整備が課題である。本点に関して、今後の調査、研究、必要な支援の検討が急務である。

教員がMHL授業を実施する上で必要と考える支援として、医療職者やメンタルヘルスの専門家による授業内容や授業方法への支援が求められているが、精神疾患に関する知識提供、ストレスへの対処やセルフケアに関する支援、援助希求行動の促進などは、精神看護の実践内容と重なる部分である。メンタルヘルスの専門家として精神看護の看護職が小学校、中学校、高校の教員と協働して授業支援を行うことは、教員が抱くMHL授業を実施する上での困難感や課題の軽減、児童・生徒の学習や援助希求の促進に資する可能性がある。

研究の限界

本研究には複数の限界が存在する。1点目が、用いたデータベースが医学中央雑誌Web版、J-STAGEのみであった。日本の状況を調べるため医学中央雑誌

Web版、J-STAGEを用いたが、より包括的に調査するためにはデータベースとしてPubMedやCINAHL等も用い検索するべきであった。2点目が、レビューした論文数の少なさである。今回組み入れ基準を満たしレビューした研究は2件であり、研究数が少なく、教員が教育現場でMHL授業を実施する上で直面する困難感や課題、必要な支援をみるためには十分ではない。今後、更に複数のデータベースを用いより系統的な文献検索を実施し、日本の小学校、中学校、高校の教員が教育現場でMHL授業を実施する上で直面する困難感や課題、必要と考える支援を比較検討していくことが重要である。3点目は、本研究で対象とした文献はいずれも実際にMHL授業を教育現場で実施している教員からの回答に限定したものでなかった点である。そのため、MHL授業を実際に実施する際に教員が直面する具体的な困難感や課題、必要とする支援の実際的な状況、ニーズについては十分に把握できていない可能性がある。今後は実際にMHL授業を教育現場で実施している教員を対象とした調査研究が望まれる。4点目は、今回レビューした文献はいずれも質問調査票を用いた調査研究であり、教員がMHL授業を実施する上で抱く困難感や課題、必要な支援について、質問調査票だけで深層的に捉えることには限界がある。質問調査票では予め設定された選択肢や設問に対する回答に限られ、教員が抱く困難感や課題の具体的な状況や、その状況における教員の主観的な経験、必要な支援を十分に把握することは難しい。特にMHL教育が開始され年数が浅い日本において、教員が抱く困難感や課題、必要と考える支援について質問調査票を用いた量的研究だけでなく、インタビュー調査などの質的調査も組み合わせ、教員の実際の声を掘り上げより包括的に実態を調査していくことが求められる。

V. まとめ

本稿では、日本の小学校、中学校、高校の教員がMHL授業を実施する上で抱く困難感や課題、必要と考える支援についてレビューした。その結果、困難感や課題として、指導内容や方法に関する不安、精神疾患を有する児童・生徒への配慮、授業による影響への不安、時間的制約が示され、また多くの教員が医療職者やメンタルヘルスの専門家による授業内容や授業方法への支援を求めていることも示された。今後は、教員のMHL向上や効果的な授業展開に関する体系的な研修の充実、医療職者やメンタルヘルスの専門家からの支援の拡充、個別支援が求められる生徒への配慮や授業後のフォロー体制の整備が望まれる。

引用文献

- 1) Kessler RC, Angermeyer M, Anthony JC, DE Graaf R, Demyttenaere K, Gasquet I, et al. Lifetime prevalence and age-of-onset distributions of mental disorders in the World Health Organization's World Mental Health Survey Initiative. *World Psychiatry* 2007 ; 6(3) : 168-76.
- 2) Nishi D, Ishikawa H, Kawakami N. Prevalence of mental disorders and mental health service use in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci* 2019 ; 73(8) : 458-465. doi: 10.1111/pcn.12894.
- 3) Kessler RC, Berglund P, Demler O, Jin R, Merikangas KR, Walters EE. Lifetime prevalence and age-of-onset distributions of DSM-IV disorders in the National Comorbidity Survey Replication. *Arch Gen Psychiatry* 2005 ; 62(6) : 593-602. doi: 10.1001/archpsyc.62.6.593.
- 4) Bertha EA, Balázs J. Subthreshold depression in adolescence: a systematic review. *Eur Child Adolesc Psychiatry* 2013 ; 22(10) : 589-603. doi: 10.1007/s00787-013-0411-0.
- 5) Lu B, Lin L, Su X. Global burden of depression or depressive symptoms in children and adolescents: A systematic review and meta-analysis. *J Affect Disord* 2024 ; 354 : 553-562. doi: 10.1016/j.jad.2024.03.074.
- 6) Patel V, Chisholm D, Parikh R, Charlson FJ, Degenhardt L, Dua T, et al. Addressing the burden of mental, neurological, and substance use disorders: key messages from Disease Control Priorities, 3rd edition. *Lancet* 2016 ; 387(10028) : 1672-85. doi: 10.1016/S0140-6736(15)00390-6.
- 7) Ghio L, Gotelli S, Cervetti A, Respino M, Natta W, Marcenaro M, et al. Duration of untreated depression influences clinical outcomes and disability. *J Affect Disord* 2015 ; 175 : 224-8. doi: 10.1016/j.jad.2015.01.014.
- 8) Licht-Strunk E, Van Marwijk HW, Hoekstra T, Twisk JW, De Haan M, Beekman AT. Outcome of depression in later life in primary care: longitudinal cohort study with three years' follow-up. *BMJ* 2009 ; 338 : a3079. doi: 10.1136/bmj.a3079.
- 9) Rickwood DJ, Deane FP, Wilson CJ. When and how do young people seek professional help for mental health problems? *Med J Aust* 2007 ; 187(S7) : S35-9. doi: 10.5694/j.1326-5377.2007.tb01334.x.
- 10) Gulliver A, Griffiths KM, Christensen H. Perceived barriers and facilitators to mental health help-seeking in young people: a systematic review. *BMC Psychiatry* 2010 ; 10 : 113. doi: 10.1186/1471-244X-10-113.
- 11) Schnyder N, Panczak R, Groth N, Schultze-Lutter F. Association between mental health-related stigma and active help-seeking: systematic review and meta-analysis. *Br J Psychiatry* 2017 ; 210(4) : 261-268. doi: 10.1192/bjp.bp.116.189464.
- 12) Furnham, A., & Swami, V. Mental health literacy: A review of what it is and why it matters. *International Perspectives in Psychology* 2018 ; 7(4) : 240-257.
- 13) Kelly CM, Jorm AF, Wright A. Improving mental health literacy as a strategy to facilitate early intervention for mental disorders. *Med J Aust* 2007 ; 187(S7) : S26-30. doi: 10.5694/j.1326-5377.2007.tb01332.x.
- 14) Jorm AF, Korten AE, Jacomb PA, Christensen H, Rodgers B, Pollitt P. "Mental health literacy": a survey of the public's ability to recognise mental disorders and their beliefs about the effectiveness of treatment. *Med J Aust* 1997 ; 166(4) : 182-6. doi: 10.5694/j.1326-5377.1997.tb140071.x.
- 15) Kutcher S, Wei Y, Coniglio C. Mental Health Literacy: Past, Present, and Future. *Can J Psychiatry* 2016 ; 61(3) : 154-8. doi: 10.1177/0706743715616609.
- 16) 小塩靖崇, 住吉太幹, 藤井千代, 水野雅文. 学校・地域におけるメンタルヘルス教育のあり方. *予防精神医学* 2019 ; 4(1) : 75-84.
- 17) Wei Y, Hayden JA, Kutcher S, Zygmunt A, McGrath P. The effectiveness of school mental health literacy programs to address knowledge, attitudes and help seeking among youth. *Early Interv Psychiatry* 2013 ; 7(2) : 109-21. doi: 10.1111/eip.12010.
- 18) Ma KKY, Anderson JK, Burn AM. Review: School-based interventions to improve mental health literacy and reduce mental health stigma - a systematic review. *Child Adolesc Ment Health* 2023 ; 28(2) : 230-240. doi: 10.1111/camh.12543.
- 19) 文部科学省. 【保健体育編】中学校学習指導要領(平成29年告示)解説. 2017. Available from: https://www.mext.go.jp/content/20250213-mxt_kyoiku01-100002608_2.pdf. (最終閲覧日: 2026年2月9日)
- 20) 文部科学省. 【保健体育編】高等学校学習指導

- 要領（平成30年告示）解説. 2018. Available from: https://www.mext.go.jp/content/20250328-mxt_kyoiku01-100002620_01.pdf. (最終閲覧日：2026年2月9日)
- 21) 各種教育資料 | こころの健康教室サニタ. Available from: <https://sanita-mentale.jp/material.html>. (最終閲覧日：2025年11月9日)
- 22) Yamaguchi S, Foo JC, Nishida A, Ogawa S, Togo F, Sasaki T. Mental health literacy programs for school teachers: A systematic review and narrative synthesis. *Early Interv Psychiatry* 2020 ; 14(1) : 14-25. doi: 10.1111/eip.12793.
- 23) 山田浩雅, 戸田由美子. 「保健」の教科を担当する小・中学校教員の精神保健 (メンタルヘルスリテラシー) 教育に関する考えと必要とする支援. *愛知県立大学看護学部紀要* 2022 ; 28 : 73-84.
- 24) Yamaguchi S, Foo JC, Kitagawa Y, Togo F, Sasaki T. A survey of mental health literacy in Japanese high school teachers. *BMC Psychiatry* 2021 ; 21(1) : 478. doi: 10.1186/s12888-021-03481-y.
- 25) Liao Y, Ameyaw MA, Liang C, Li W, Ji Y, An Z. Effects of evidence-based intervention on teachers' mental health literacy: Systematic review and a meta-analysis. *Sustainability* 2023 ; 15(11) : 8981.
- 26) Lynch FL, Hornbrook M, Clarke GN, Perrin N, Polen MR, O'Connor E, et al. Cost-effectiveness of an intervention to prevent depression in at-risk teens. *Arch Gen Psychiatry* 2005 ; 62(11) : 1241-8. doi: 10.1001/archpsyc.62.11.1241.
- 27) McLaughlin KA. The public health impact of major depression: a call for interdisciplinary prevention efforts. *Prev Sci* 2011 ; 12(4) : 361-71. doi: 10.1007/s11121-011-0231-8.